

# 有機農業の理解醸成に向けた学生との意見交換の実施

持続的な農業の取組拡大のため、若い世代に有機農業への理解を深めてもらう。  
農政局、生産者、販売業者、金融公庫と多様な人材が講義に参加することで化学反応を起こす。

## ○ 施策分類

みどりの食料システム戦略、消費者対策、食育

## ○ きっかけ・背景、課題の把握

- 令和3年度から有機農業の生産者団体、食品事業者及び消費者団体等との意見交換を重ね、有機農業の拡大には「消費者の理解醸成」の必要性を課題として把握した。

## ○ 取組の内容

- 有機農業の理解醸成に向け、令和6年度は、消費者の中でも若い世代をターゲットとし、管理栄養士を目指す盛岡大学の学生と意見交換を行った。
- 有機農業に関わる生産者と販売業者を招き、両者から取組内容を説明後、学生を5グループに分け「有機農産物を小学生に理解してもらう食育イベント」の企画書を作ってもらった。グループには進行役の農政局職員と特別参加の日本政策金融公庫の若手職員2名も加わり、学生と活発に意見を交わした。

## ○ 効果・成果、今後の方向性

- 学生たちは、生産者や販売業者からアドバイスをもらいながら発想豊かな企画書を作り、楽しく有機農業への理解を深めた。
- 生産者、販売業者、公庫職員にとっては、学生と近い距離間で意見交換したことで刺激を受け今後の活動展開の参考となった。
- 講義後に教授から次年度の講義依頼があり、岩手県拠点として来期も学生への有機農業の理解醸成への取組を行っていく。



学生にアドバイスを  
販売業者（左上）



学生の作る企画書に  
興味津々の生産者

## 体制図

